

報 告

スポーツの力～ウィルチェアーラグビー日本選手権大会を通じて～

日本ウィルチェアーラグビー連盟 普及委員長 峰島 靖

2014年1月19日、ウィルチェアーラグビー日本選手権大会最終日、決勝戦。

「No.12 3.5クラス 峰島靖!」

ついに、自分の名前が会場にコールされた。

夢にまで見た、念願の瞬間だった。

日本選手権大会で名前をコールされるのは、決勝に勝ち進んだ2チームだけに与えられる荣誉なのだ。

所属する「AXE (アックス)」は去年、一昨年と3位-4位決定戦止まりと、あと一歩決勝の舞台に届かずにいた。

チーム、そして自身も初となる決勝戦。いつもとは違う何とも言えない緊張感、雰囲気の中、決勝戦の幕が切って落とされた・・・。



図1 夢にまで見た決勝の舞台に挑む

さて、ウィルチェアーラグビーと言う競技を初めて知った方も多いのではないのでしょうか。

ウィルチェアーラグビーは通常のラグビーとは違い体育館で行われ、広さはバスケットボールコートと同じ、丸い専用球を使います。4人対4人でボールを奪い合い、ゴールラインをボールを保持した選手が通過すると1点となり、得点を競い合います。

欧米では大変人気の高い競技でパラリンピックの正式種目にもなっています。

この競技の魅力は何と言っても車椅子の格闘技と

言われるほどの激しい攻防戦にあります。車椅子競技の中で唯一、コンタクト(故意に車椅子同士をぶつける事)が認められている為、相手選手を転倒させる事でボールの所有権を奪い取る事がルールで認められているのです。

もう一つ重要なファクターとして選手の障がいの重さによってつけられるポイント(クラス)があります。障がいの一番重い選手で0.5ポイントから始まり0.5刻みで3.5ポイントまでとなります。

合計8.0ポイント以内でチームを編成する必要がある為、コートにいる選手の組み合わせによって戦術を変えたり、障がいの重い選手がタッグを組んで相手の障がいの軽い選手を封じ込める役割を遂行していたりと、豪快でありながら緻密さやテクニカルな要素も合わせ持っているのです。

私がこの競技に惹かれる理由ももちろん、相手を転倒させる程のぶつかり合い・激しさにあるのですが、それ以上に、いつ転倒させられるか分からない恐怖感、心臓が締め付けられるようなシーソーゲームでの緊張感に身を置く選手達の真っ直ぐで真剣な目(スピリッツ)が好きなのです。

逆にその部分が抜けていたり、中途半端だったりすれば、大きな怪我をしかねない正に格闘技なのです。

頸椎損傷など重大な障害を負ってから、日常生活が何とか出来る様になった頃にこの競技を始めた選手も見て来ましたが、何処となく気弱そうに見えていた顔つきが数年を掛けて戦士の顔になっていくのです。

ウィルチェアーラグビーの選手に恐らく草食系男子はいないでしょう(笑)。

この競技で強くなる為、選手によっては世界を目指す為に個々においてもトレーニングを行っています。競技を続けて行く為には専用の道具を揃え、メンテナンスをしていかなければならない為、金銭的

日本ウィルチェアーラグビー連盟
〒167-0041 東京都杉並区

な負担は少なくありません。

競技用の車椅子はオーダーメイドとなる為、40万円から70万円も掛ります。また、遠方での試合があればそれに伴う遠征費や宿泊費も掛ります。

その為選手は皆、仕事を行いながら合間を縫ってトレーニングを行っています。

私たちの競技はまだマイナー競技なので、競技だけに専念して食べていける選手はいませんでした。

そんな中、「㈱つなひろワールド」という会社様から大手企業でのアスリート雇用と言うワークスタイルのご紹介を頂き、今はメットライフアリコ生命保険㈱で仕事と競技生活の両立をさせて頂いています。

私の場合は週3日をトレーニング、残りの週2日はオフィスで業務を行っています。



図2 仕事と競技の両立

こうした働き方によってトレーニングに集中出来る環境と、競技を引退する事になった時にも職を失わないという安心感を得る事が出来ました。

「㈱つなひろワールド」様のご紹介によって、他にも数名の選手がアスリート雇用によってトレーニングに集中しやすい環境を手に入れ、日本代表クラスで活躍しています。

・・・ハーフタイム、折り返し地点まで試合が進む中、自チーム AXE は劣勢に立たされていた。

試合開始から各選手に硬さが見られ、いつも通りの攻撃リズムが作れずにいた。それに加えて、微妙な判定での反則を立て続けに取られてしまい、完全



図3 決勝戦での激しい攻防

に歯車が狂ってしまった。

後半戦、徐々にいつものリズムを取り戻し、反撃に転ずるも時既に遅し、結果は BLITZ 64 - 49 AXE と点差を付けられての敗戦となってしまった。

今年の AXE は予選リーグから全勝で勝ち進み、勢いがあっただけに、決勝戦は非常に残念な試合内容になってしまった。自分たちの実力不足だったと痛感している。だが、マイナスばかりでは無い。

決勝戦の持つ雰囲気や緊張感を体験し、撮影したビデオが研究材料になる。

AXE は結成後、最下位からスタートした。そこから毎年力を付け、着実に順位を上げてきた。一昨年が3位。今年度が準優勝。

今年度の経験を糧に来年度は優勝をもぎ取りに行くチームメンバーで固く誓いあった。



図4 準優勝の記念撮影

私はスポーツには力があると信じています。

幼い頃から、水泳に剣道、陸上に球技と色々なスポーツをずっと続けて来ましたが、障がいを負った時に「もうスポーツは出来なくなりました」と失望した事がありました。知識が無かったのです。

でも、実際には色々な競技があり、しっかりとスポーツとして成立しています。

私はウィルチェアラグビーが仕事の一部となり、生き甲斐の一つとして無くてはならないものになりました。

障がいを負ってしまったたり、何らかの原因でリハビリをしなければならなくなった方達と接する時に、「世の中にはこんなスポーツがあるんだよ」と一つの可能性を示してあげる事で、気持ちが前向きになったり、充実した生活を送る事が出来る方が出てくるかもしれません。

医療従事者の方々にもリハビリの知識の一つとして、色々な障がい者スポーツを知って頂き、紹介して頂いてもらえたらと願っています。